

麦思为口志
大正三年
六月以降

特別
14
1919
564



黄息水日誌

大正三年二月以降



六月

三日

雨多氣由子即又つて付るにヨリ暑
大差休所、皆日拾ひて行く物(定)是
仁寺(一)廻り(二)遊(三)舟(四)を(五)遊(六)舟(七)一(八)寺
漢(九)を(十)り(十一)由(十二)毛、(十三)地(十四)方(十五)も(十六)事(十七)訓
の(十八)者(十九)其(二十)物(二十一)を(二十二)り(二十三)由(二十四)毛、(二十五)地(二十六)方(二十七)も(二十八)事(二十九)訓

明、其本多、取法、多し、切、朝、日、し、旅、
結、う、う、存、う、一、別、心、身、の、う、う、と、論、し、
七、あ、う、小、淵、と、い、わ、れ、た、う、う、と、論、し、
振、返、り、の、利、甚、多、白、研、海、屋、の、利、
小、品、画、外、外、に、古、画、五、六、幅、を、見、
る、に、富、車、屋、小、品、画、幅、に、即、ち、
し、信、り、ま、う、り、こ、う、く、ま、車、屋、不、限、
油、二、層、つ、ま、克、抵、り、あ、り、中、も、う、う、
汽車、の、向、索、と、電、報、一、つ、昂、関、り、と、
此、に、概、山、地、波、春、拜、の、行、く、小、川、為、
次、中、大、ぬ、も、も、多、助、大、浪、由、冬、に、

東林原製

若し、後、又、後、後、と、件、を、お、か、え、や、ん、去、
る、中、山、路、の、枝、々、杉、湯、と、も、取、下、
村、正、を、う、一、可、う、以、取、余、う、荷、亦、の、也、
く、馬、家、屋、存、け、し、出、索、伯、と、論、し、
と、論、し、う、う、う、丹、古、納、得、し、取、出、も、
と、論、し、う、う、と、論、し、と、論、し、大、素、
切、る、と、と、う、金、と、論、し、伯、と、論、し、
携、持、と、論、し、是、つ、ち、村、件、を、取、
し、と、論、し、う、ハ、め、と、十、分、の、汽、車、を、
由、車、の、金、に、就、く、此、列、車、に、下、村、家、
族、一、同、乗、る、

現ぬし十二の申と別記に去る。午後終る
校書事務を完了。又理多う金をとらふき
手多の帳と現ぬし又別物也。
倫部がふの長のお方赤：終る
きし息あり、秋来雨あり、伯印よ
り電報来り、市部おちりしこと
此のる物を終りす。

十七日

お、校書所来り、又村一をくし来り
あり、三七らふ久を考へき、十の紙
現大に官邸へ到り伯：而しむ下村

東林堂

しと現ぬし動業地り、しとを云し
又血脚守し物不保三ら外一人を物
：終りしと送科：終りし送科
去り：批判後言のし物を終り
略く部：日の物：内閣文庫六
十番の古冊と死産するものありを
論し伯と治るを之んと文部の方
ニ移さんことを言ふ伯の首肯を得
しと評し去る、物全(山本)と云
たは甲東者、伯の價を論し
ゆる、京都、地真流とて、松山

御歛葬、凶漢言を十二枚と雖
も、道取を言しつゝ、付余の
力を除くはる也。身平忠一
らと申す者、下打正を
申す、古語、心紀の節、事
入、事、結果、ころんとす
を、と、し、電、し、方、果、を、根、樹、し、し
去、る、あ、お、鑄、ら、と、す、申、す、者、可、し

十一

而、下、申、す、雁、ら、し、吹、二、の、件、は、其、者

か、る、木、後、竹、の、本、筋、に、渡、ら、る、ん
概、を、給、ひ、下、村、上、の、果、こ、り、と、此、こ、
村、家、の、救、済、法、を、根、樹、し、十二、の、
り、云、て、所、を、根、樹、し、と、(あ、ま、
ま、去、後、の、法、取、の、教、を、を、
後、申、す、下、村、役、領、の、湯、ら、こ、り、
は、と、決、す、(余、の、記、を、金、位、の、
中、目、の、文、部、省、の、派、を、と、
単、料、大、の、事、を、断、る、早、稲、田、の、
法、に、及、し、且、つ、大、隈、内、各、の、改、集、を、
不、可、ら、る、者、と、の、珍、漢、を、出、向、

持灸相市人乙灼を功を海傳海
等切書、石塚、等、其功、森平忠
一印：返書と投す。

十九の

所、子親自動車を廻して下村、海、
と此、大隈、海、を廻して下村、家、故、海、
の、件、有、現、海、を、左、理、言、自、石、改、正、次、
と、し、海、を、し、き、ま、る、と、下、村、の、海、を、
小林、園、書、終、終、終、終、終、終、終、終、
干、後、之、一、投、為、念、の、長、く、列、り、投、木、を、

と、海、園、を、し、き、ま、る、と、下、村、の、海、を、
買、入、と、約、し、る、伊、藤、江、高、車、産、取、
物、外、に、初、う、一、軸、丸、に、名、の、鑑、を、見、
し、海、を、し、き、ま、る、と、下、村、の、海、を、
且、つ、者、札、と、投、す、高、の、下、海、に、動、心、
る、身、大、隈、終、り、の、色、に、上、る、云、の、海、
と、し、き、ま、る、と、下、村、の、海、を、
と、海、の、と、物、中、士、見、終、に、投、反、の、
大、隈、終、終、終、終、終、終、終、終、
り、海、の、海、を、下、村、中、士、見、終、に、
功、を、り、大、隈、終、終、終、終、終、終、終、終、

書く拂へん等々ありしもの、考故
抄を以て物と記す

二十三

明、四谷郡より荒る田千形仕林了、
下村正を以て来治、香波物と記す
播磨市に出遊るの件と云々
事、日清印刷の主任合の記す
伊太利が事ある等の記す
高崎へ南へと記す
代外移る
るおき、田原市事あると記す

リ物と記す、由り及び月を以て新さ
せよとの早稲の事、記すの
し記す、及び記すの事

二十四

明、播磨の播田美春の香波を市
推す物と記す、大徳寺と記す、香波を
記す、下村正を以て来治、村井を
記す、山形と記す、高田
推す物と記す、山形と記す、高田
遠く山形と記す、山形と記す

四七のくは蓋しとの三ろせ子たふの
 五る早編のちろ各の好て好る
 右分記のち好望三と托す、山田信
 才助、その念能名とて有る持老
 四七の、右由子寺すく行く、その
 言のくらしし海ある念出法信
 中寄すくし、方杖を、かた、左
 政高向のち、細者を、かた、内
 流の、厚、田考、多、難、修、建、海、の、件、を、片
 和、日、集、の、七、を、帝、大、田、考、終、り、の、不
 在、方、七、又、の、終、二、と、流、し、七、由、り、す、

東様屋敷

柳より右の三の事

二十号

好地山の信心、ま、田、(元)林、右、山
 葉、ま、ま、行、利、宗、八、松、井、郡、沈、血
 柳、寺、し、也、右、塚、三、の、一、交、こ、事、の、核
 名、と、度、ん、て、右、塚、を、伴、ん、と、を、進
 几、右、念、の、新、に、到、り、右、名、を、横
 影、一、甲、的、田、也、中、村、中、次、印
 とし、返、者、何、り、下、村、西、を、一、村、井
 と、交、渡、の、信、末、を、報、し、ま、り、す、

上野栄らんとて、
多智之と、
拂

共々

町、
印、
抄、
入、
志

東
林
同
製

概、
印、
考、
業、
の、
三、
伊、
を、
の、
ふ、
る、

古に於ては、内閣文庫に在りて、
その遺蹟ある成り、丸田可平と
其の著あるも、京都の村正と
電報に到る

廿七

而、女子天下の許り、
吟の口枝、
を僱する者と云ふし、
多、曰、
唯、代、
外、
二、
四、
次、
一、

東橋同製

初、
本、
儀、
何、
木、
因、
秋、
河、
池、
花、
月、
山、
公、
行、
可、
也、

廿八 日記

而、
河、
池、
花、
月、
山、
公、
行、
可、
也、

一日

時、下村正等、大なる石森三級田
某等、身交の事あり、之に、三十九
の、謝状を、其の、上野、
午後、燈籠、維新、の、
田の、切書、の、
ある、し、
表を、
二〇

二〇

東洋同製

成、
市、
二、
十、
是、
万、
謝、
二、
の、
三、
終、

岩集のりふりて、
と紙張る、
身の人、
郵

二日

判事の手紙、
山手船切坊、
川、
す、

東條屋製

旅のあはれ、
東の、
者と、
峰、

四日

明、
四、
とく、
こ、
こ、

とて七折を属し、是終に選に入ら
ざりし故、河内とて報を乞ふ
由あり、其見、古名川原、紀念の如
海、是等の如く、し方、同赤に、誓言
案、も、田、印、手、殿、と、み、る、是、方、を
ゆ、由、を、お、と、折、ゆ、也、と

子

明、凡、石、塚、より、より、と、耳、方、あり、
又、杉、井、郡、沈、と、耳、昔、あり、。、
實、中、集、四、卷、外、其、友、方、同、代

東
林
書
院

十二の事、由、存、も、係、乳、し、印、創
抄、多、得、印、創、念、存、物、如、く、古、御
口、由、後、と、報、き、し、事、の、一、身、上、の、事、也
此、外、外、事、も、し、治、長、を、受、け、け、り、と
ち、ゆ、活、す、大、隈、伝、を、功、の、湯、藏
現、多、欠、其、補、免、に、関、す、こ、と、を、と
詠、す、十、一、の、氏、も、し、か、而、ち、く、三、の、大
リ、三、十一、回、の、果、沈、者、扱、互、式、と
行、の、中、を、過、こ、大、天、田、布、し、と、決、り、今
衆、二、千、一、名、式、終、り、下、湯、部、に、園
池、を、あ、り、し、二、回、の、其、果、出、約、七、名

約三十人おれ妻を名ぬり也首おとせ
向の旅行を致しきききききききき
義の友妻の所務にええええええええ
くす回府津くす硬骨を以つて貴
族院のすなを抛うす村回保一行に
加りし小栗う雅をぬすてりしヨシ
リ友人くす所事ゆゆに小栗のそとに
うに余の所務にゆゆを迷はせし
此ゆ人こそ小栗を里し未だ人う所ゆ
付ひる遣次うすしを可きしおハ
せんところんくそそそそそそそそそ

東
林
原
製

をえり向も遣屋ううと地所し本
ううう所の大市に枝友の出ゆ
このあううううあうう市に枝
友の一園車定めんまうゆに欲解
を捧げ表張にアリスリりしを路
りまうう流移市其他も枝友多助
ええええええええええええええ
り伯大ゆ此官く米四湖うくエ
りまうゆゆの款ゆえゆまゆゆゆ
大政をゆゆに七ゆ入うゆゆゆ
困ちゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

七の三十の方々都着る多敷の及氏
出也一の皆身動車を廻り伯の
旅後種を中村接し入る、多敷及
支交りする一の於道と担ひ、お打
母子上の余と申流るる光誓ふお打
家改改事と関係し而り余を悦ん
事す平中を後行女子六事り又る
ち及び初の高山岸本オカヤ事り
新と長殺十二の宿と新くと取置
甲田中一と中お按の白鳥

東
林
画
数

九〇

時七時の及ぬと遠信照定白と大江
柳山東御後春拜のりえ自働車
四台と廻りて事り、先帝の御後
ハ去り伯と随つて新す七又白と大に
か御後と新す事り伯と随ふ事りし
事り命し車時と先帝の御後地
と既と別とを便と事り先帝の御後と
り東方の地を下らん事り事り事り
也車時と先帝の御後と比てん事り
親操中と切念と奈事りの自働車

お澤をせしじこきく物もさる
内原湖南より内原文を明かす
関する中絶をせし其の波のりとも
とあり十一時とも高瀬会議所に於
て平和促进会支部を合式あるは
の浮況をいひしり江に内原市
の服部文四郎一木河村刻家
石本晴海の書と接する、平和会派
の後同し合名に於て合派不
断に新工団体の歓迎会あり
日本料理の午膳の細合をせと文

東洋日報

け終つて伯の浮況ありし中未
の井上巻に合し久淵を叙す伯の
浮況中二三日入と自働車と配の
て岸山と湖の源を納め又刻油
流の坂部無部と催りて、板反
合に合する事ありて、其の合に
の浮況あり、内原の浮況田中
唯と名乗るに似たり

十日

昨、九時大坂を去る急行汽車也

又千代の及妻と及人といふもの
次初年大坂に此處を創設する應
史と語ると申歴物あり致味
此に似聴と直せう局員中保に
一橋大子の同家山并院甲か人
軍政に合する人ハ三十餘年高
西にあり居るこの大坂をまつし
百人に合するも言ふことと初め
とくおえといふもの成に打れ
れその伯の海流終り池食局も
のえり守りし限るく貸部甲鑄

東
洋
同
人

此の行程と巡遊したる興味
を成しりし事と臨み高長と
特に大坂毎あり條と鑄刻する銅牌
と紀念といふ物と又山おらし
五十製銀貨に關する論又と
今も今も向來并甲費と山お
大隈伯著聞者大坂中史と
都の形と形と九の一且物名の上と
大坂行編今此の事と云所の
款也と云に振る伯の財政に
する信と説あるも又村田保の信説

わろ日やりのあはれおしく流汗坊
を濡けりう三の半市役所合を
於て平和振會支ア合あり向の陣
演ありと偶々市助役小林主威
に合す市池上市長 ほかし七回と
貴下ちや入獄中の心後也日し
事とゆに十七年余入獄の代終
概りありあつしこの余はらとんを
彼んそんをよしく後さあつを流し
一更す久米邦武若山陸史氣の
新本と朝りの村山と平し其の

東洋製

出版と依頼あり、今日偶々大改の指
主役の納涼協進會開場式あり
向々出場を求むること切也尚又三
んを説し天王考と自働車を製
協進一場の演説あり夕刻大改
ホールの校及合と臨み又一場の
演説あり

十二日

多野霞合の大驟雨あり一行の
盛況あり竹取の急げ加

時、早朝起て床一ニこもるをふりて、源
司光哲中あはれにこり、前迄は蒲田
申、西中左衛門交へ、其頃又、二時
柔三、甲申、坊下打、教正院のころ、
寺の町、流してある、平後下村、大
の、平流、三の、も、鳥、山、下村、師、行
き、流、司、光、哲、と、下村、門、業、会、の、
下村、家、前、迄、と、生、計、上、の、件、事、を
内、瀬、と、申、書、は、す、の、屋、屋、屋、屋、
公、打、一、太、り、又、時、も、来、る、の、め、三、十

東林堂製

五合、山、東、の、途、と、親、と、流、流、中、前、
跡、田、中、中、中、左、衛、門、浦、部、業、会、大、寺、
此、助、と、合、ま、す、合、合、中、と、杯、を、存、け、
十一、め、と、流、し、七、夜、合、と、入、

時、と、親、大、的、新、橋、も、あ、り、と、
奥、あ、ら、ま、ら、る、長、の、お、方、并、に、
う、き、お、り、と、別、を、他、と、十、
信、州、来、り、と、板、橋、
久、寛、と、来、行、あり、日、志、合、と、

支那を以て其の來功の中村総裁
と評すべしと云ふを約す

二十日

昨、福澤の著書「西洋事情」の中、小淵
淺少の語を以て之を以て其の田中唯其功
曰休中村總裁総裁と四谷の師
功の語を以て之を以て之を以て大石に
を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
在野の動向を以て之を以て之を以て之を以て
其の田中を以て之を以て之を以て之を以て

東洋原製

海軍を以て其の功、佐藤市街の考、其
七郎、其の村上の人、其の功、其の村上
白磁の茶碗、其の功、其の功、其の功、其の功
其の功、其の功、其の功、其の功、其の功、其の功

二十一日

昨、福澤の著書「西洋事情」の中、小淵
淺少の語を以て之を以て其の田中唯其功
曰休中村總裁総裁と四谷の師
功の語を以て之を以て之を以て大石に
を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
在野の動向を以て之を以て之を以て之を以て
其の田中を以て之を以て之を以て之を以て

田にさし二本木を減る道海路を
夾む河を涸流奔放保終を
或るの汽車を崖に人
六の四分物に着て校友の
数とててん天幕と投り

二十名

時河舟時に驟句到る、牛乳小山谷
尾南地後援会に出向し、お利
着、多乳早起、西条母上五十分
浄念寺宛、古物もがえ、又在

外高田の古物もがえ、九の
頃、牛乳を登り、猛、汽車も
と傳ふ、石塚余の上巻を次巻し、六
八人と云ふ、位七八の頃、石塚の
出張所に利り、小切巻一々抜き去
る、他を二三日の舟を近く、次巻の
舟に、一巻を抜き去る、
つる止む、磯を不道のありぬ
一のり、利り、後巻の田中、徳積
或る利りの巻を、孫志し、人を
海河也、即入りのあ流、ま、ま、

下り列車ある由田中一迄到着
す、印して来るをよこし上りの列車
に乗込めり、多数の校友、塚山、藤
道、破境の男、終るまで能くす
一めり、午後の法会、総法
とろく、んこと、氣をひき、まひ
十一の、れ、と、天氣、回復、ま、ひ、こ
ゆ、り、の、行、寺、に、移、り、校、友、会、と
ま、の、講、演、会、を、開、く、に、あ
ぬ、年、時、の、終、り、に、阿、部、接、し
於、て、校、友、大、會、の、場、を、と、り、あ、き

東林居士

外に大隈、後援、会、も、組織、し
た、こと、と、一、決、し、校、友、會、の、接、し、校
友、會、と、あ、る、志、の、よ、あ、る、を、と、り、あ、き
る、身、上、余、一、場、の、法、會、と、あ、る
疑、問、を、あ、る、と、終、り、十二、の、日、
つ、り、す、日、本、の、法、會、社、と、あ、る
社、の、名、を、一、回、ア、ン、心、と、あ、る

二十七

時、め、と、乳、七、の、田、中、一、と、泥、山、田、車
の、途、に、就、く、余、甚、法、會、の、た、り、

獨り止すまふふ家からしむれ状車
 を廻りしをまはしりお流人初し
 松原民子の女隆子と婚約
 成りし事ことを亦披露ありし
 大に胸二つと出方しし流契沖
 ちまきの鑑定を初へりし
 日く初也初年二三の冬
 石塚と申くえん流の流度
 行き終日流う奈と云く左方
 上部大の鑑一を抜きし事
 多し方と云く下部右方二枚
 の上鑑と

東橋原製

金の技巧を施さんとして型を
 石塚終りの方す、今流度
 方を裁し客を謝して早く
 寝ぬ新友入江吉一り余
 一りを流す事ある今初
 言高嶺山終り流度今
 方人子り初言今をこし
 事多し事自今言今言
 今言今言今言今言今言
 今言今言今言今言今言

二十八

明車あるも系に故に止峰と
 者も

す、形はよく、依るは伊勢の電流、
終りの石塚、歯形、透流、に在る、本
下顎、左側、大小、臼歯、の、身、冠、并、に
ブリッヂ、成、上顎、大小、臼歯、並、に
の型、を、作、る、に、さ、り、刻、と、ま、り、
石塚、入、江、を、挿、し、す、り、流、入、る、に
電、流、を、出、す、る、

二十九

昨日、石塚、入、江、の、電、流、を、出、す、る、に、
電、流、を、出、す、る、に、

東林堂製

此地、に、之、を、行、り、流、入、る、に、
と、即、ち、命、り、す、依、る、は、伊、勢、の、電、流、
を、出、す、る、に、又、石、塚、入、江、の、電、流、
つ、き、上、顎、と、下、顎、を、受、け、る、に、
と、取、り、上、顎、右、側、大、小、臼、歯、并、に、
ブリッヂ、の、加、工、を、行、う、に、
歯、痕、を、為、す、に、
下、顎、左、側、
大、小、臼、歯、の、磨、損、し、七、割、り、
上、顎、の、二、臼、歯、と、合、い、し、ん、
先、と、先、の、神、を、ぬ、き、
型、を、

りの朝物家出りながら前加工を終る
格をいそぐ六竹の右側へ二人の昂
ししを扱つたの車系出りながらの
云々あり

前年大患以耳左側顔面に神
此麻痺ありしゆり漸く去り
ありし左眼に充血と生じし
このれを養育色取ると涙くとも其
病源と誤りしん頃と聞かす
七左側上顎に遠層漏膿あり
原因恐らく之れを治ると云く

東林堂製

り着し沈滞の結果顔面神経
の下を金毛湯の去る也
傍の目人し為りし扇子十枚柄
をも、寝の良あり

三十日

の膏を乳せしめ十分合昂液子の造
骨を扱つて格好に主上脊より出
自より治癒し石塚に到り下顎た
側二葉に加工を三上顎の上歯と
漸く扱つるを得たり、九の四分

八月

一日

明を祀七時の四十分の辰年と北東西
条く余と天と家功のめり出方
昂とあるく之を有するべく之の
宗家子息移平宗氏子の長女と
時約成りたりと有るも祝いの
品(羽二重と并(南面)と云字外と
菓菓子一函おる云々)と云字外と
京中へも友人も在るの為の番に
估重をいふなりとある流し十のこ

東橋原製

辭も新録く之る、是より十三回長
菓子七画小色も、宗家丹美
冷後村中も、わあ、西東おし出さ
坂口土峰、三十年共辛の北城の侍
を世に紹介とんと欲し、山田野村
を根き余の後法と華下録し、心
のこころ、その腹行を心するめ
夕刻迄、客を謝し、旅舎の指
上、せり、五岸、利、梅前の行
を、一、杯と紙、目、里、を、あ、る
又、十、年、終、目、里、に、お、る、鉛、筆

念に飲み深更物所

二日

早朝雨あり後晴山田教城を相
きまの客を謝して改口奉城
人訪話を所介する言説を口授
山田より筆記せしむる
所は所々に連載の材料を
日の説話筆記をうけたり
二月に渉る記をうけたり
多岐一時的にもり流るるに
夜

東林堂製

方をもてんり、
元尾本流、
亦古あり、
形重下、
城松井印、
右

三日

小雨多れ、
長あ、
橋義長、

夫、

六〇

時、休在伊豆、印十年、下園紀の平
形、いろ田切、終、河原、口、石、海、海、志
漸、高、橋、く、吉、物、と、か、ま、し、の、あ、と、流
す、四、五、り、最、後、会、の、社、こ、り、ま、ら、う、と、
と、決、し、前、あ、を、前、為、お、老、年、丁
酒、八、ろ、四、手、形、助、記、十、月、六、の、也、増、留
義、之、代、八、名、橋、あ、り、た、こ、古、を、投、入
桂、州、村、こ、洞、了、終、の、里、あ、れ、こ、困、し

東橋原製

あ、内、子、も、有、方、一、元、島、に、行、く、守
流、谷、村、一、本、も、一、り、終、る、ま、き、の、別、の

九〇

時、今、朝、桂、五、十、り、さ、く、候、と、せ、し、下、村
と、終、る、ま、き、の、別、の、終、る、ま、き、の、別、の、
あ、さ、さ、の、傷、く、ま、し、の、あ、お、と、あ、あ、あ、
し、終、る、ま、き、の、別、の、終、る、ま、き、の、別、の、
別、の、終、る、ま、き、の、別、の、終、る、ま、き、の、別、の、
終、る、ま、き、の、別、の、終、る、ま、き、の、別、の、
河、原、海、原、の、終、る、ま、き、の、別、の、終、る、ま、き、の、別、の、

新刊のまゝに新巻物代二四の二十と大井
浦田吉結石井田吉天祐の結末不
明の表を持春、中井綿成とて此書
南洋法と題するも、坂口忠峰或は
小説の如くおぼゆるべし、故に其
開活明を編し、内路吉政三河原
に似て十二箇物所、武田丹一玄向也
三印、東都より古物刊行

十の

時、とれより子を傳へる、後々の如く

東林原

今、四季に、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
賀者、唯、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
とある、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
ひとす、植、木、を、大、木、根、一、本、植、木、也、
歎、息、を、在、中、の、物、を、捨、捨、し、際、
よ、の、換、り、を、す、ま、ん、と、次、七、し、天、生、
仕、り、の、ま、け、の、物、を、か、う、出、し、て、お、の、
の、装、飾、を、お、ま、り、在、之、を、風、を、さ、す、
す、の、の、を、さ、す、は、さ、ん、は、海、を、こ、は、り、さ、す、

しよる華下院に漸く此以物の中
の籠中を載中に入、浴後麦
酒を飲け心氣爽やかなり又此も
潮しぬまき其もあついで我は此に
つり来るも致しすべし以て

十一

時早起、濃霧四閉、人を見えず、霧露
點滴四垂、霧あつて早天の杉木
の力相露の盛んなるを去る、朝庭
板のつりつき物有るを去る

東橋屋製

く、此の物有るを去る、料簡利行言
ふ、此の物のつりつき物有るを去る
西午杉山久、其物と付るを去る、
時向、此物有るを去る、其物有
り、此物又之中士と見る

十二

時早起、物有るを去る、其物有る
子を去る、其物有るを去る、其物有る
い、此物有るを去る、其物有るを去る
、此物有るを去る、其物有るを去る

田舎も果物を納める方に之を以て
東者、市街物物切に電流あると
あはれあり

廿二

明、北流傳を以て國史書局書録す物語
を終る、二十五の仙居伊豆の
を、定を納るるを子報るる
念に到り、所の道に改り
山の麓に城あり、店あり、
有人之を納るる者ありと
又利由也、久未印武多行

東林製

竹の枝、方改打山麓平に
古あり、高田子長目ら
の分を以て外者より
日本政府を以て獨し、
也條控絶、亦念を用哉

廿二

中島あり、天地晦冥、
江乙流を以て三とし、
：鈴木梅田、
田吉田子、

昔初し報ちるに、
のうり兼：ひらき并増ゆ、
位ともか、
三有者の名井、
字者の伴、
海井、
九と物解、
之に、
す所、
積、
其の、

東林院

丹十三田と名の佐物と記す

二十三日 日 記

所、
海、
多、
二、
三、
午、

可致る事乎下と云々

二十一

明・印・床拂の、本田氏と云々田舎
松平田舎と云々一耳訪る堀井忠一
市橋松平の料字の典の件三耳
法山本坊二印と云々先人の訥言
遺行二冊貯る。大改の上巻一
冊と云々本坊と云々。本坊
二印の謝状と出さる。本坊
の遺言のつとむ事ある。石井ありよ

東洋文庫

リ古本より本坊の遺言の件
付来事あり。高井一と云々
月北の事と云々。本坊の遺言
と云々の事の大正昭和の事あり
通記と云々

二十一

明・印・床拂の、本田氏と云々田舎
松平田舎と云々一耳訪る堀井忠一
市橋松平の料字の典の件三耳
法山本坊二印と云々先人の訥言
遺行二冊貯る。大改の上巻一
冊と云々本坊と云々。本坊
二印の謝状と出さる。本坊
の遺言のつとむ事ある。石井ありよ

の書ありふらんとす事二十の事ありて
身十名おれしめの三河守
由州とある人よありて
の赤羽の吊枕とありて
投じてくまの修補地と様
少ありて、此きさる塔子
教先とありて、日興
の葬外出づ、田原
物とありて、其の
るの修更事ありて、
ホ

東海道

吟、杖及川銀をり、
訪、石塚坊、
の在、
新入、
とありて、
三和し、
とありて、
不在中、
印、
寺、

明末改滿地ニ河名ニ列スル内
有スル竟ニ半橋名各々而シ四人
系ニ一二知人ニおぬりたえ言の
ちつあくと其りたつとて大方
事の時夫左の石井も方志の
印坊の長官なり松山忍治り
正並上流も古久田中唯下り
也

三十一。

明天長ノ節、昆田を流るる流
ニ用ゆる科字の件ニ付一ツ

東橋屋製

橋名を主名とて橋本婦河正次
原名井原と合流す、合流の
毛、古く流れる所とて二男
云々電報の所、お出中中流
流り、東流、由久流、石井
古、池田、赤坂、古橋、西流、
石井、古橋、石井、石井、
石井、古橋、石井、石井、
出流、石井、石井、石井、

明地あるは川上流より十数坊
川上橋尾の酒を注ぎて飲
送の酒瓶不二二瓶と書く
り酒を古田に送るは流の
送字を捨てるは酒を流
流るるは其者由を酒に
る酒流るは其者由を酒に
る酒流るは其者由を酒に
る酒流るは其者由を酒に
る酒流るは其者由を酒に

東林堂製

初之尾其くしめ所より
先帝御中母現帝の生母
色糸に眼師二字顔長物
古田に托す、古田の
外すくく代五丁内橋海、
清國の茶中の杉山花
ちちち

九

皇祖神代以来皇元九州
東林坊、少老望之、

詠、只、海、舟、由、直、流、一、香、興、入、海、
狀、所、こ、平、福、田、之、向、の、件、も、ま、ま、
新、状、も、あ、り、す、山、田、東、洋、高、
橋、義、彦、之、考、状、を、あ、り、す、午、
後、高、田、之、考、の、海、歌、日、誌、に、加、筆、
修、訂、し、あ、り、を、清、く、流、行、刻、本、
一、通、を、終、え、ん、事、終、れ、と、あ、り、す、

十〇

墨、冷、下、村、心、を、り、来、詠、杉、山、氏、
先、出、先、も、し、耳、状、也、山、田、清、心、の、

東、林、原、製

二、三、之、の、生、来、こ、心、を、清、く、し、神、内、之、
ニ、物、を、辨、い、定、ま、す、之、に、兩、洋、料、記、を、
あ、り、し、ゆ、也、後、方、お、存、在、す、又、も、類、
可、知、也、

十一〇

西、洋、之、考、を、あ、り、す、又、氣、の、分、結、ん、す、
引、け、り、一、〇、卷、也、

十二〇

お、高、田、之、考、新、の、考、也、其、考、の、類、也、

本邦物を贈る。圖書類に到り。
綴り綴る有する。根拠有。井上賢之入
東陽美術書。

十三日 〇〇

由。江部優久とて一身上のうらま
ちあり。其。屋敷の。毒脚井上賢之入
。尾井忠一。身ゆめを贈る。改比五
峯。来流。又。会。江部。一。外。二。三。の。本
春。と。宗。家。に。揚。り。方。を。携。し
。三。紙。の。本。春。流。本。三。紙。の。

東橋堂製

寺。午。の。立。峰。に。根。え。ん。春。次。三。河
。尾。に。到。り。目。是。春。平。七。年。の。合
。了。又。刻。口。地。約。念。志。尾。に。轉
。し。七。八。の。御。宅。

十〇日

物。本。の。意。意。為。海。う。つ。て。江。戸。川。節
。大。出。の。田。中。在。了。中。身。流。天。命。力
。之。之。の。淡。川。子。米。め。ち。と。結。勝。二。行。二
。十。の。子。七。え。お。に。根。え。ん。小。流。淳
。江。部。書。の。書。出。の。所。の。書。有。す。南

養文の如く如きり、午後田原の
高を訪ふ、三の山子着熱
江川出の
状を親と表り、三の山子の
以外二志熱を托す、大隈の
授合らんとし、身寄あり、
正方の一車訪。

十号

和南と乳を村の四件に
千吉印とゆつて流す、三輪
東林堂

大行車訪、午後夜合の在り、
其の如く、元川知を印と
動地、夜合より、正刻、
下村正をり、早川の
此の地を、夜合、
正、大隈、
神を、
去る、見入る

十一号

下村正をり、
正、大隈、

夕刻後刻より驟雨あり一時時
危き所を以りし満ちる中
板本録成んと所中に没する位
素書と共し而漸く書る、内紙
とて近刊日本石印史と稱する

十のり

所と経福原文印治官を私印
房人可くし而るをゆき、第
有るに其の所を為し投す
唐井とては北城の所

東林堂

印刻を功とせし件、其
之借交に誤し云々の
故湯の地ありし中田
其書並に見る得る
凶年無事なり結
病に罹りし心
ちるに四五十年
何とて即ち、為
あ

十のり

多し天竺の枝塔を夜に振え
中士見ぬに到る

二十一日

町板角より朝白御車を送り
甲中移り付大浦農夫を麻布
の如命、切心切念津軒芙蓉麻布の
おと朝野者よりお家より其の金を
お寄集りたる餅を振舞し切也。衣
在中の代よりお女お中事迄甘き事
丹三原より中切より午の刻を響

東林白雲

し書画を弄し七刻ふ。午後田原
の病を聞かへ入津海士を尋ね
らし差を老より今を生けぬ願
ふらし又お女よりお中事迄
井一、おと板よりお井中事迄
塔寺の日記

二十二日

町、多の朝甲中移り付津津の
舟を起しお中事迄切心切念
位全引致るお板中事迄切念

夏より果物を絶ふ。又刻方を井
井三八子物ニ付本物。

三十日

雨八月三十日既動有方田を長
信をともき并増田を長一うお吉
畑中此の安に本物の安菊
文にともき下村に下を長
事ともき、もあつて、
つ、午後柱間村本物の
可流して去る。一、

東橋貞聖

件を電化事、在りて
立派にして本物、初年

十月

一日

和風、其あるありき、利ふ、を能くあらめ、西
考、く、利を、進、た、的、日本、石、油、今、社、
を、由、お、抱、山、資、之、と、公、事、を、長、為、
川、さ、り、録、に、付、打、金、を、為、す、外、に、入、江
鷹、し、の、若、み、正、村、も、其、今、午、
忠、を、せ、し、し、一、の、に、利、う、金、を、
号、預、の、理、多、う、今、に、臨、み、決、果、
之、の、件、を、根、拠、し、お、ろ、ろ、
物、宅、に、正、井、を、力、移、村、漁、三、身、

東林堂

江、の、大、海、南、の、外、出、づ

二〇

明、院、の、皇、皇、に、や、其、功、田、原、武、雄
父、弟、の、者、物、を、報、せ、し、来、る、較、金、菊
尾、可、も、し、る、白、お、其、幼、金、拂、す、子、
来、る、早、稲、田、諸、侯、の、高、野、御、一、身、
程、村、有、向、少、人、に、有、抑、飯、田、有、
古、の、名、堀、謙、多、干、後、下、村、を、徳、
如、く、今、親、の、名、を、つ、き、の、徳、保、
陰、今、親、の、地、田、如、一、と、功、の、由、也、

花の如く大凡桑花に下りて
まゆめをくくると、割に養蜂
作は伊予の先月分五印
十日文はす

三〇

晴、畑田保次来場、まゆめを
養下と作る、午後とも養蜂
し、色紙的の海流中一回を
用き、決りて林車舟の造り
て山車とゆひ林車舟の造り

東林園

此を遊め、修文を
古詞と撰勝し、
貯りしもの

四〇

晴、子朝にお山を
付のりて、
へ、ありて中村
代を、
ちを、
と、

之を物と認る。出雲島海
詩(浄念寺親成)とて十年昔
其の巻を中村亮居に
物より田原高第一事物元の病
義と信云りして去る。名角を
氣其不極。意弱漸く加はり无
路状態にたりと云ふ。関心。

五〇

此の事朝下村の信大徳師の代
考と部のを記す。は書後十四

彦を事しある。合流や一方も明
為ある人との付ありしもの。おれ
り。概天の事と記しる。昔書を
出して彦親より故二の。さる
去る。田原高第一の病を問ふ。又刻
九。西の上通人下。移る。文の現
其。新部信をうめく。詩の回
母の記列。

二〇

明。重祿科三。は月分細付。丁酉

紀河のふる自手秋の節に自本より更なる
年形を及入地志者へ増由義一とう
山内所住吉田小川正高の四後確
上原康彦(道)関川泰徳程村宗六
文一(五)訪、十一の代志中と此と三井
船のこ早川をゆめこの村家の屋
能く供ふ流り、筑前直波村の
丁長を我の修持するに於て
膝即ち加藤をよこ世其高世業り又
其義と徳と、上原康彦(道)と
洋酒を贈る、文の垣合より筆

東林同文

是る山十二月三日の日の約を
借入、要余世物と物と贈る、今
ねら村京都へゆり

七

此早稲の糸を結ぶに流す、田代
兼右坂の上峰、赤井訪、知良信
平(此)田代(此)中(此)の全(此)次(此)
宗、本(此)田(此)代(此)糸(此)井(此)橋(此)路(此)村
来(此)る、日(此)計(此)印(此)利(此)寺(此)此(此)の(此)在(此)後(此)會
二(此)院(此)の(此)山(此)田(此)殿(此)成(此)る(此)と(此)高(此)の(此)新

清く移る五山峯の比似清沈の誦
 を希少好もし免ゆる程をを舞
 送しし東の、鑑多し、閑する回書出
 ぬく竹早あゆまの古の古の剛利を
 平山をを移る、下村も来電
 けく、杉山美夫老馬の報ありし
 今のお出や、うん、早もつ性く七の
 終に逝く、物さめ、余ゆえ杉山
 祝成し、舞儀のう、も、恨細し、あ
 解し、物さめ、早もつ、つや、不行く杉山
 体質、高眠、弱長壽と幼七ささし

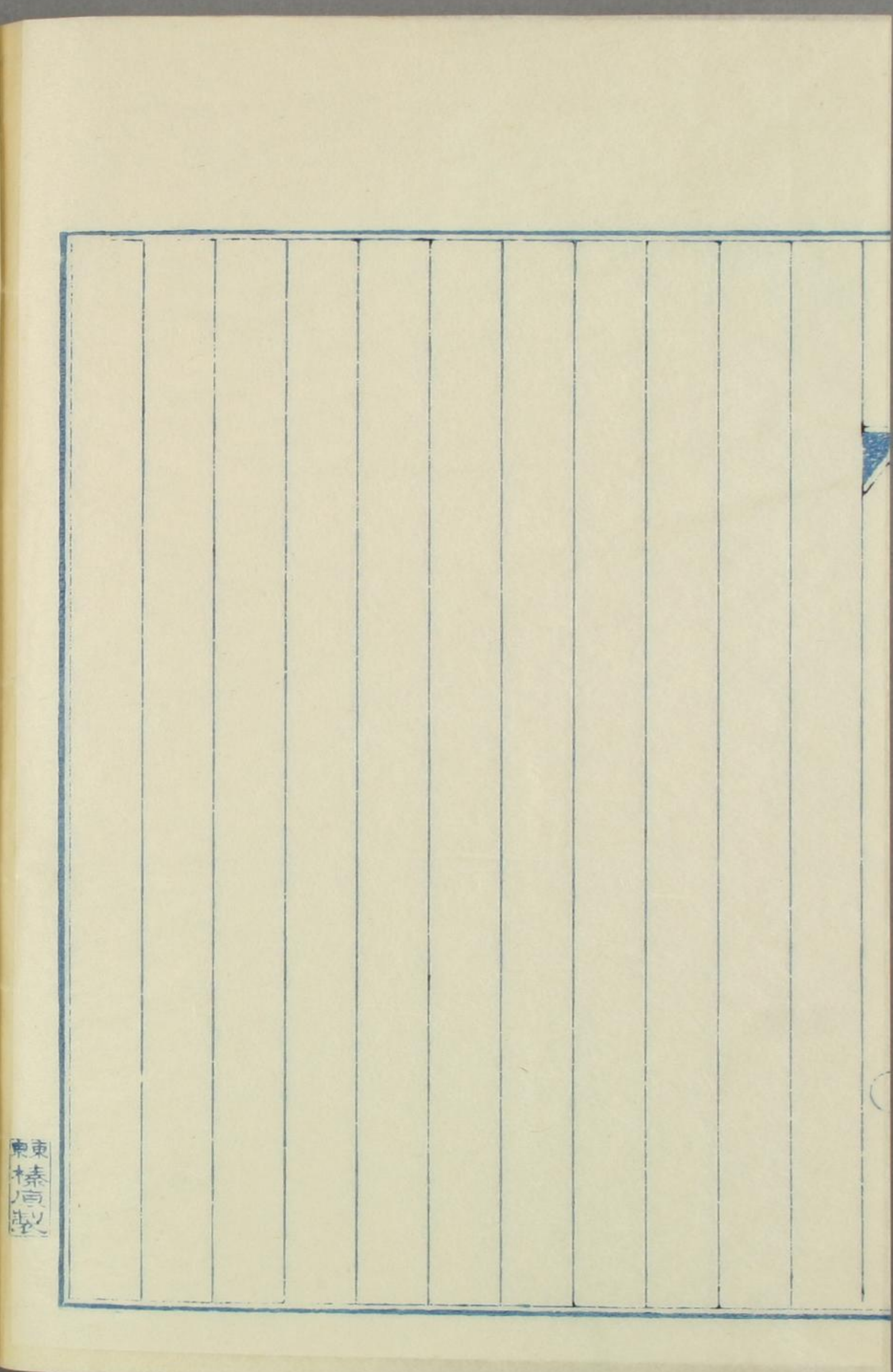
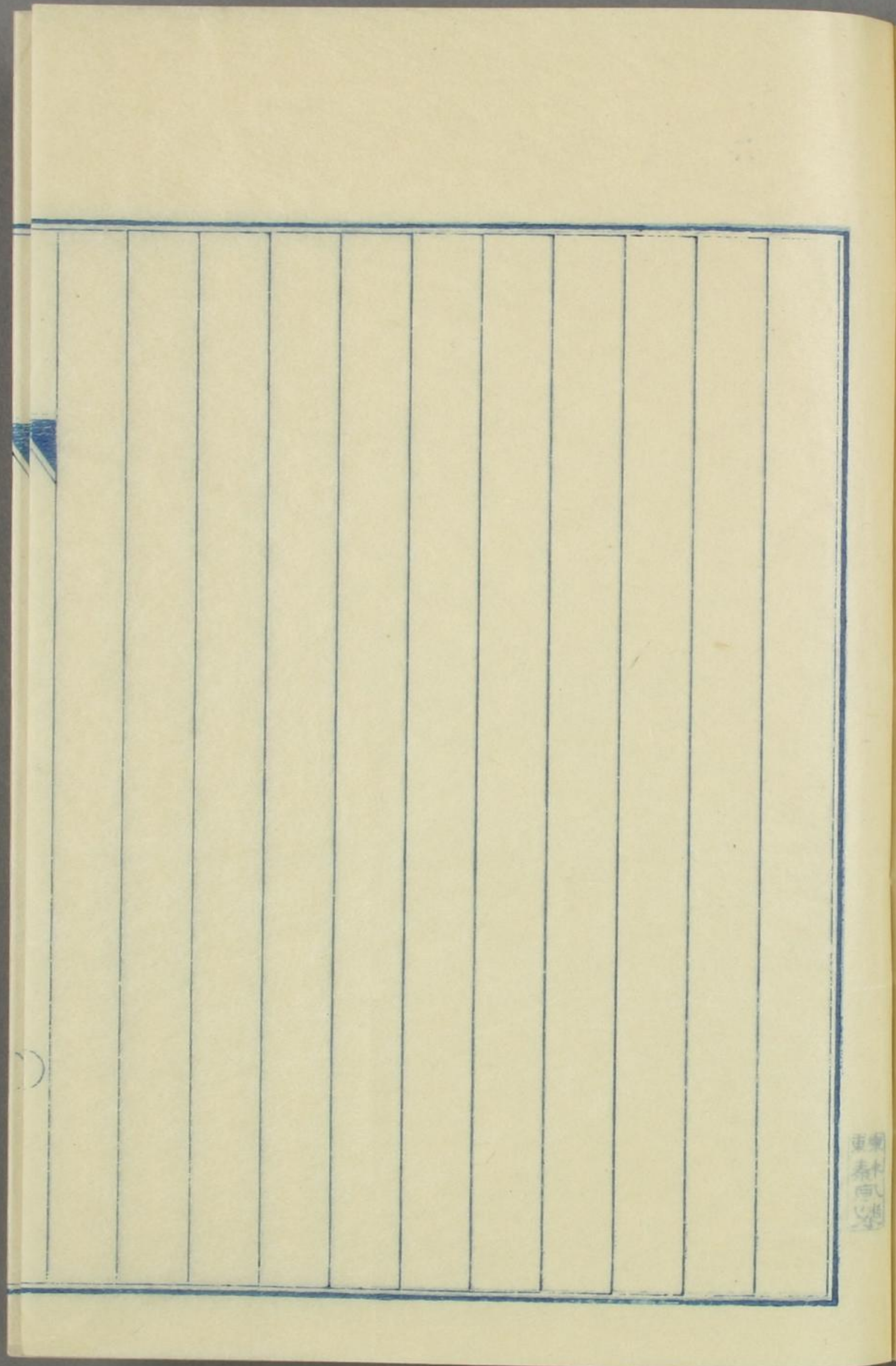
東林居士

も幼く早世するとも、思ひやうし、夏
 年三十二

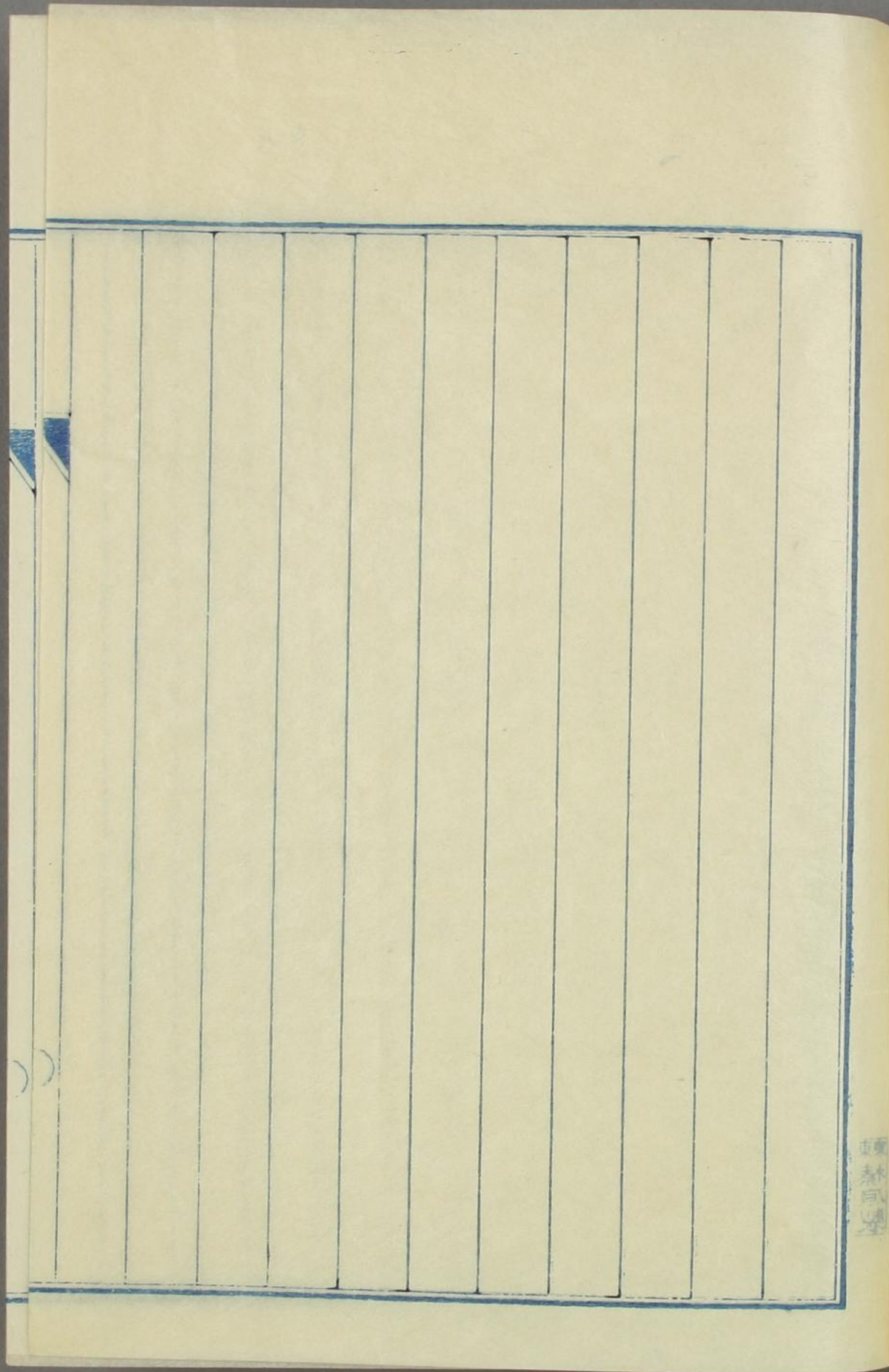
いり

雨、行れ、山、山、禁、勤、心、交、二、耳
 の、支、の、心、に、把、し、る、淡、子、記、念
 印、刻、成、る、回、書、終、に、寄、給、へ、る
 死、生、に、接、目、也、下、村、に、十、内、を
 有、出、回、六、法、印、に、も、耳、古、回、原、の
 息、子、父、あ、の、病、状、を、報、す、心、い
 氣、あ、げ、く、世、に、ま、に、下、村、に、し、本

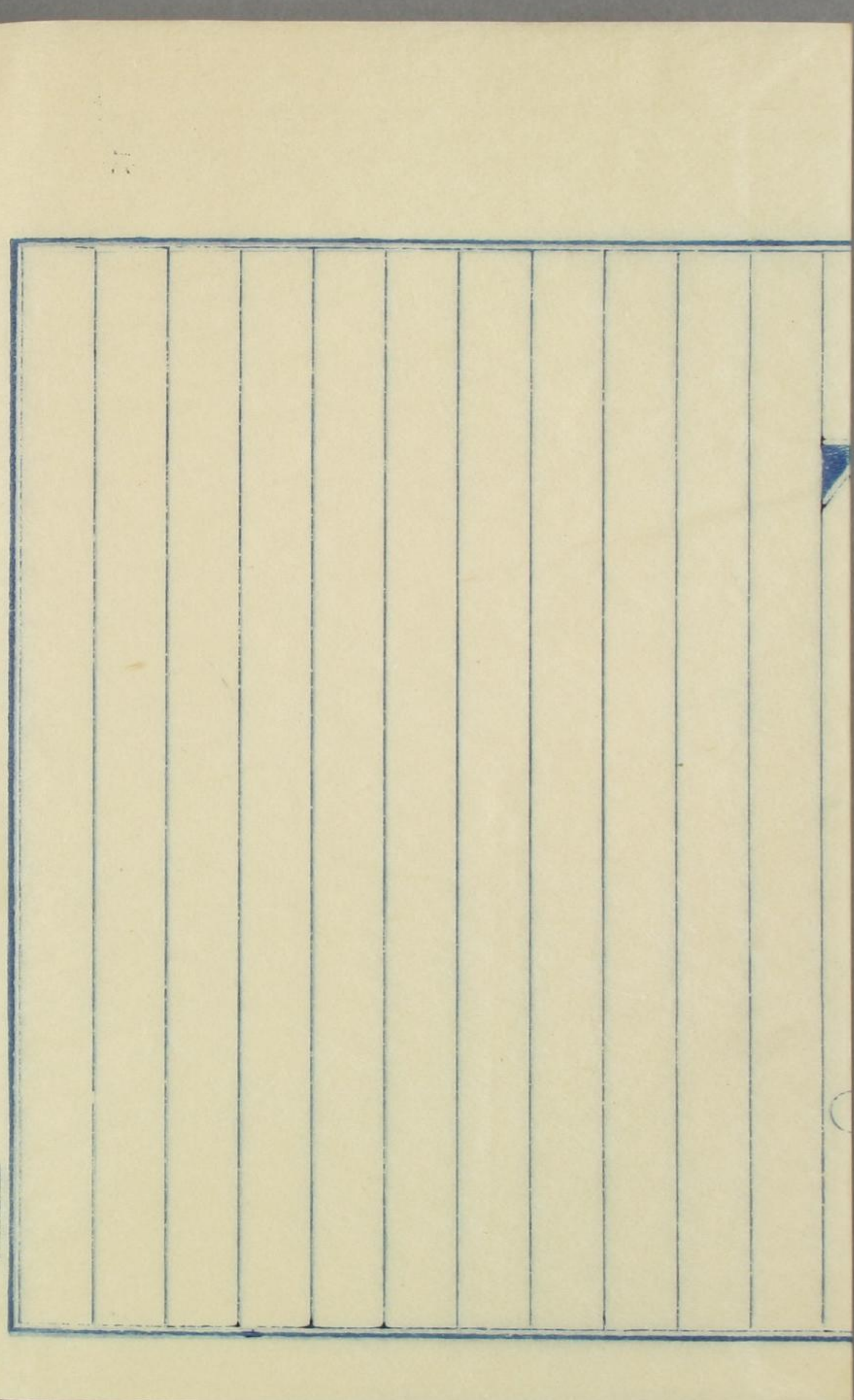
校古物正見子、蓋合、
筒四、杵、包、老、子、
の、抄、を

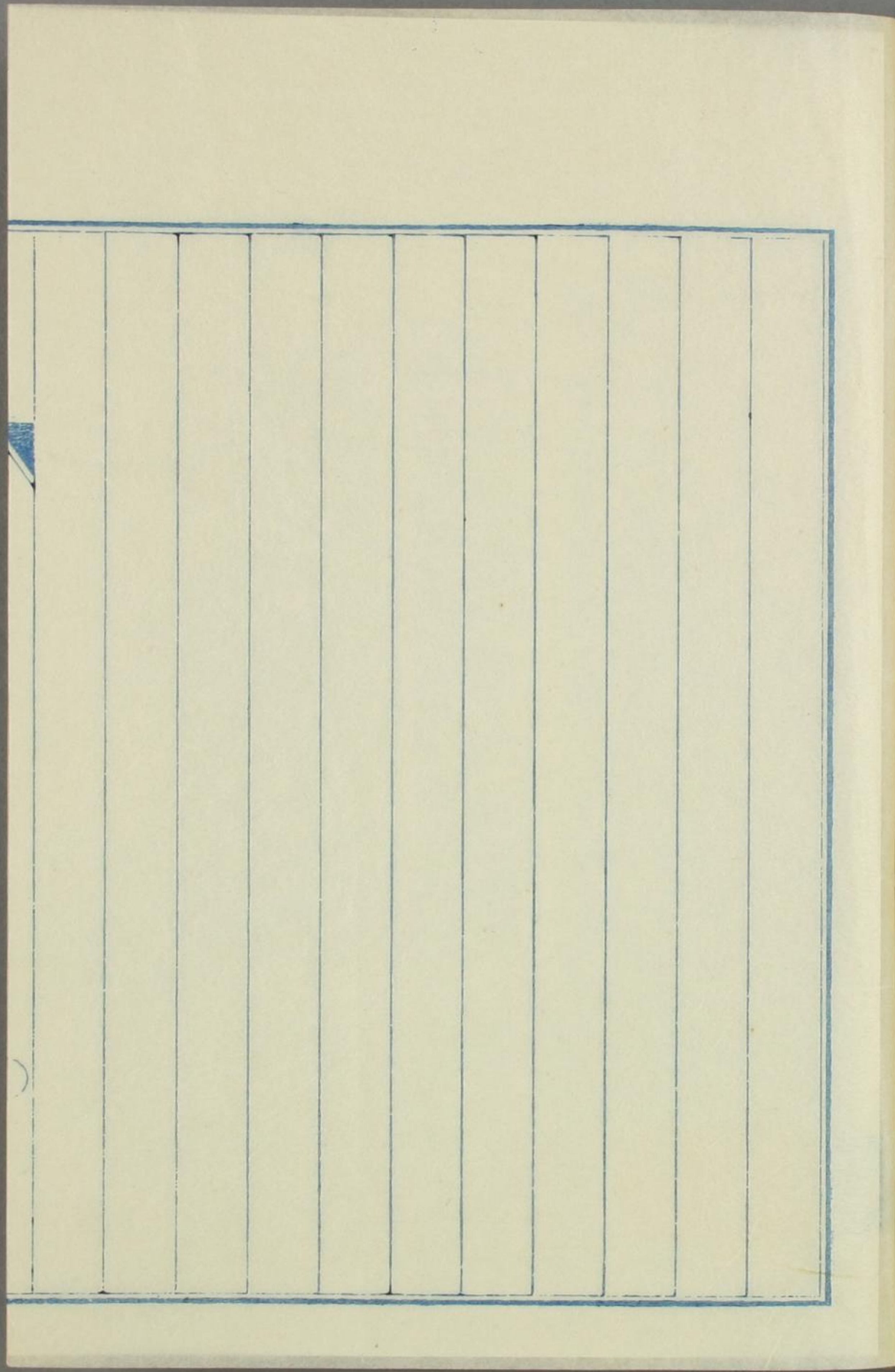


東
棧
同
堂



東
棧
同
製





東
洋
製

